



仁摩サンドミュージアム

大田から仁摩へと向かう道を進んでいくと突如としてピラミッドの形をした建物が現れます——仁摩サンドミュージアムです。このピラミッドの中には世界最大の一年計の砂時計が置かれています。

一年計砂時計は毎年、元旦の午前0時前に年男、年女が砂時計を回転させ時を刻み始めます——砂時計を回す年男、年女は、募集後1～2日で受付が終了してしまうほどの人気イベントとなっています。

仁摩サンドミュージアムには、若い女性を中

世界最大の砂時計



合計6基のガラスのピラミッドのうち最大のものは高さ21m、底辺が17m四方あり、この中に直径1m、高さ5.2mの世界最大の砂時計が納められています。落下する砂の量は、直径平均サイズ0.106mmの粒が1トン入っています。

心に毎年6万人以上の来客があります。また、以前、一人で来られた女性が、夫婦やカップルで再度訪れるリピーター客も多く、恋がかなうパワースポットと噂されています。



……もしかすると「日本で最も低い天井」かもしれませんね。感じさせてくれます。跨線橋の天井も山陰両県では最も低く……もしかすると「日本で最も低い天井」かもしれませんね。

マニアのかたはよくご存じで、列車から降りて写真を撮られるかたもおられます。

日本最古です

跨線橋の鑄鉄製門柱

J R 大田市駅

J R 大田市駅のホームにかかる^{こせんきょう}跨線橋の門柱は、明治23年（1890年）に造られた日本最古の鑄鉄製の門柱です。

跨線橋の入り口には、帝国鉄道庁神戸工場で製造された日本最古の門柱であることを示すプレートが飾られています。また、柱の脇には「1890」の文字が記されています。

ちなみにJ R 大田市駅は大正4年（1915年）7月11日に開業。来年は開業100年を迎えます。

知る人ぞ知る「日本一」です



J R 大田市駅 駅長
板持三津郎 さん

大田が唯一？のネタをご紹介します

ここだけ 大田

大田町の彼岸市「中日つあん」の名物となっているジュース自動販売機。機械の上にあるガラス容器の中で、オレンジジュースが噴水のように噴き上がるめずらしさと、一杯10円の安さから、いつも子どもたちが列をつくっています。

所有しているのは「さんべ食品工業株式会社」



彼岸市「中日つあん」
いつも子どもたちでいっぱい



天ぷらまんじゅうを料理して下さった
JA石見銀山女性部 部長
森脇 岸江 さん

大田に嫁入りして、初めて天ぷらまんじゅうを見たときは、びっくりしました。でも、食べるとおいしくて2度驚いたことを覚えています。
いまでもお祭りのときには欠かさず作っています。大田独特の料理ですから、若い皆さんにも受け継いでほしいですね。

さんべ食品工業株式会社

噴水式自動販売機

まだまだ現役



社長の勝部邦彦さん。父である先代の社長がこの自動販売機を購入してから50年以上、彼岸市で働き続けています。

ガラスの部分は取り替えられていますが、その他の部分は購入当時のまま。現役の噴水式自動販売機は日本でここだけです。そして、このことが多くのメディアに取り上げられたため、大阪や九州からの問い合わせや、動く姿を見に訪れるかたもいるそうです。

また、ジュースも地元の甘夏や八朔の果汁を使用しており、ここでしか味わうことができません。

時代を超えて子どもたちの人気を集める噴水式自動販売機。「動かなくなるまで『中日つあん』に出し続けます」と勝部社長は話しています。

極めてコアな郷土料理

天ぷらまんじゅう

伝統の料理を受け継いでほしい

紅白まんじゅうに天ぷらの衣をつけて揚げた「天ぷらまんじゅう」は、「箱寿司」(押し寿司)と並んで大田のお祭りに欠かせない料理です。

まんじゅうの皮の赤と白、あんの黒と緑、衣の黄の五色はそれぞれ、火と金、水、木、土を表し大地を象徴しているとか、方位や五臓六腑を意味しているとか……諸説ありますが、見た目にも鮮やかな「天ぷらまんじゅう」は、おめでたい料理として、この地方に古くから受け継がれてきました。

県内でも大田以外では、まんじゅうを天ぷらにして食べる場所はないようです。また、市内でも温泉津地域では、食べる習慣はないとのこと。とっても狭い範囲の郷土料理です。